

第3期 飛び地型自治体連携SIBヘルスケアプロジェクトの概要

■構成メンバー

構成自治体：大阪府高石市 5.6万人 ……2014年度より健康ポイント事業を展開。現在3000人実施。

奈良県田原本町 3.2万人

鳥取県湯梨浜町 1.6万人

(調整中) 福岡県飯塚市 12.9万人

中間支援組織：つくばウエルネスリサーチ

サービス事業者：タニタヘルスリンク

評価機関：筑波大学・つくばウエルネスリサーチ

金融機関：各市町の地域銀行(候補：奈良中央信用金庫、池田泉州銀行 他)

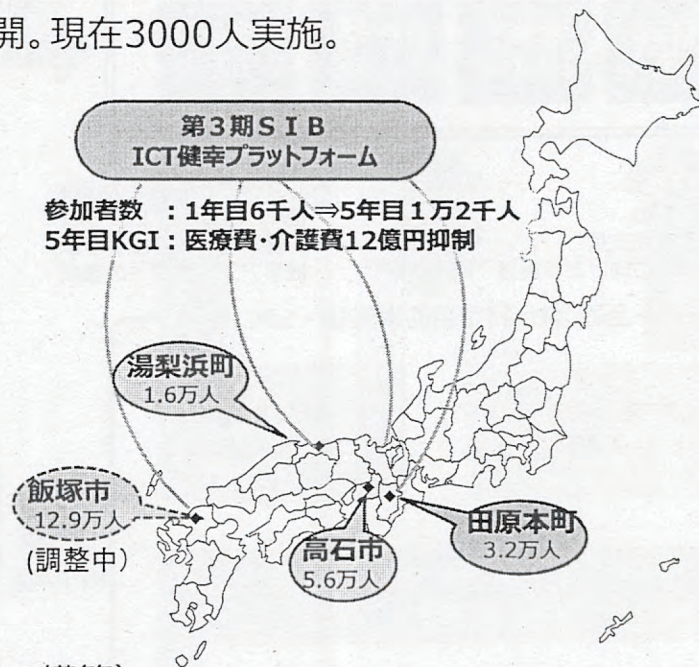
■事業内容

- ・ICTを活用した健幸ポイントプログラム「からだカルテ」によるポピュレーションアプローチの実施
- ・T-Wellを活用したミドルリスクを対象とした運動教室の実施
- ・市民のヘルスリテラシー向上のための健幸アンバサダーの育成
- ・ヘルスケア産業の育成にむけた高石市リビングラボ事業の連携自治体への展開（収益モデルの構築）

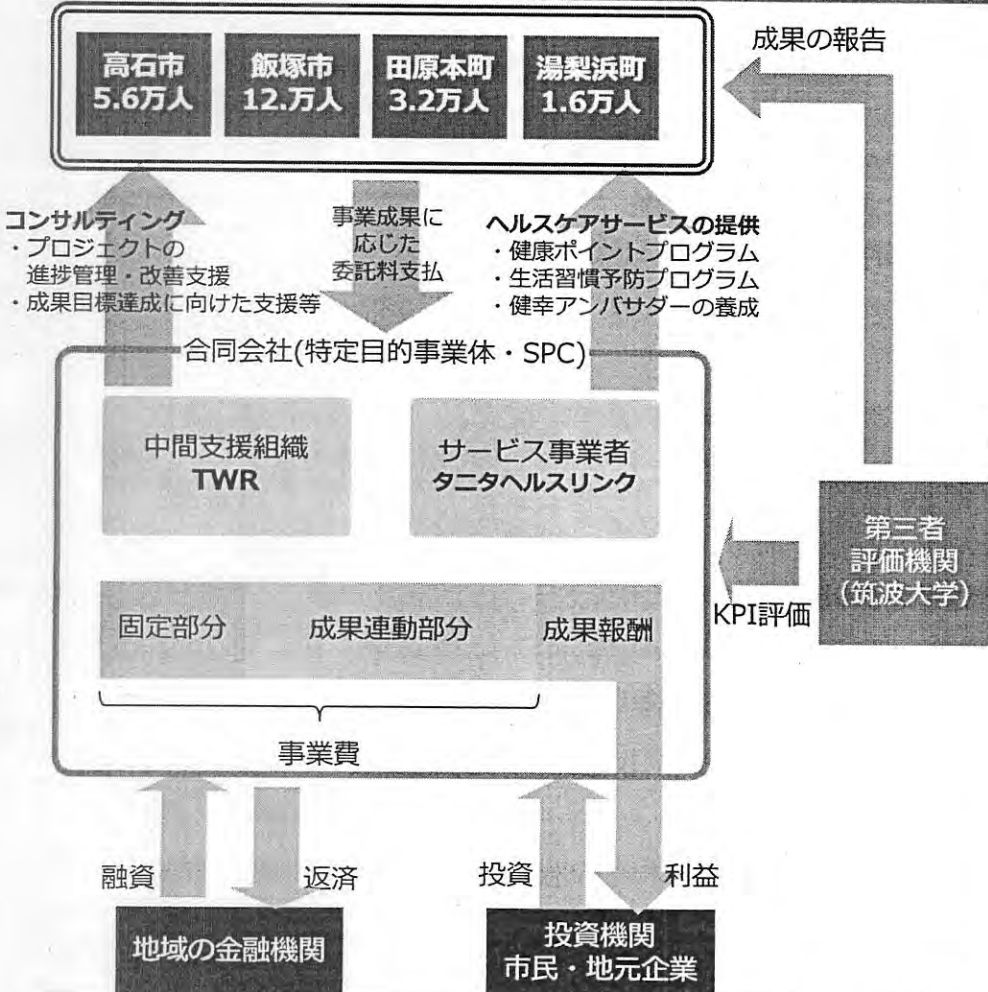
■5年後の事業規模

大阪府高石市	5,000人規模	医療費・介護給付費抑制効果	4.7億円
奈良県田原本町	2,000人規模	〃	2.7億円
鳥取県湯梨浜町	1,500人規模	〃	1.5億円
福岡県飯塚市	3,500人規模	〃	3.8億円

12.7億円



ソーシャル・インパクト・ボンドの活用



SIBとは、「行政等が営む社会的事業に対して、民間の資金とノウハウを活用して、社会的課題解決に向けて取組んでいく官民連携手法である」。

実施する事業により創出される社会便益（行政コストの削減等）に対して、成果目標を設定し、資金提供者に対しては成果目標の達成度合いに応じて対価（配当）が支払われる仕組み。

KGI & KPI の設定(案)

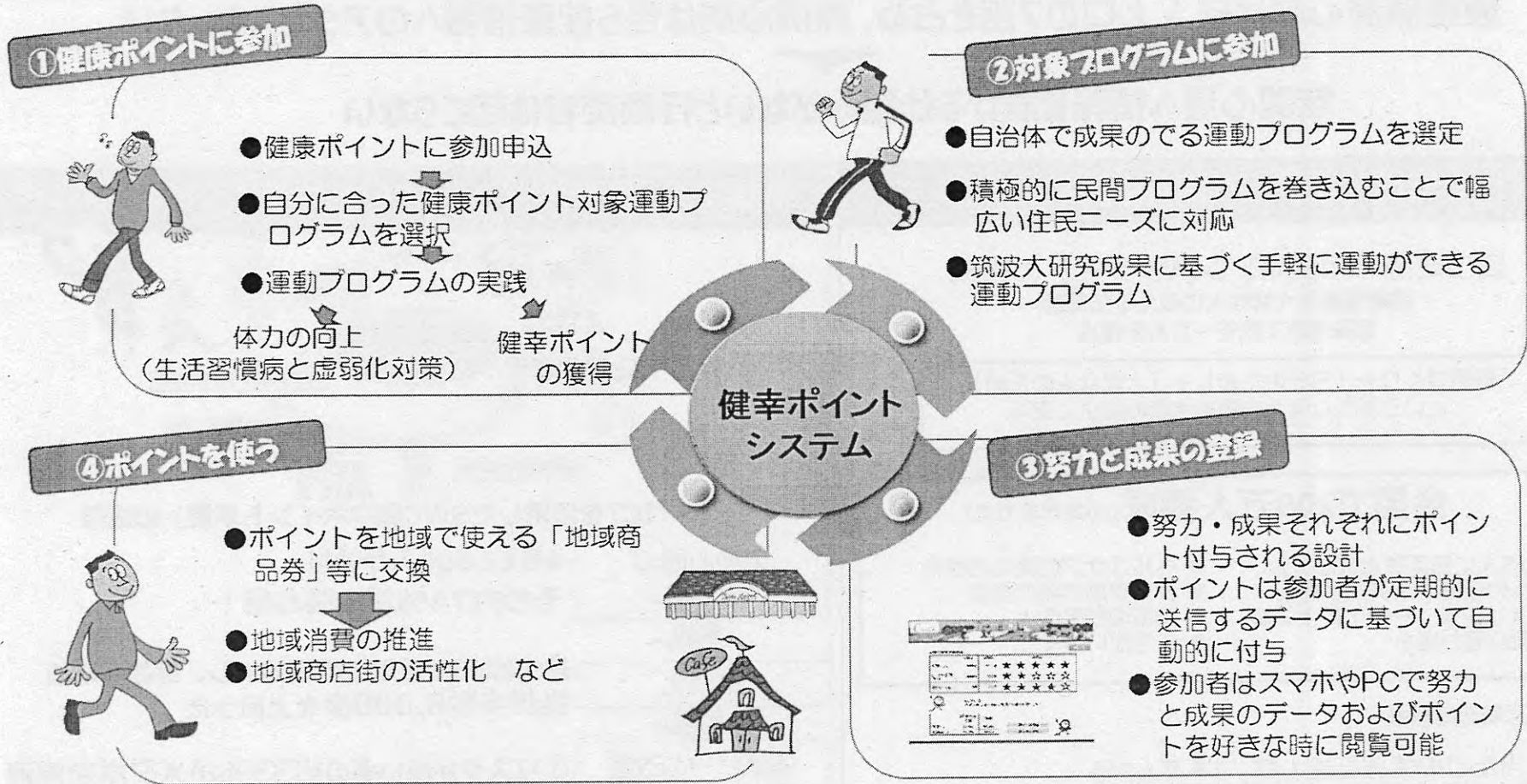
5年後KGI
2019年度と比較し、プロジェクト開始5年目（2024年度）に医療費・介護給付費抑制効果：4市町合計2024年度抑制をめざす

毎年KPI 5年後にKGI達成を可能とすることを念頭に各年度のKPIを設定

指標	
参加者数	新規参加者と継続参加者のそれぞれが目標数の90%以上
運動不十分層割合	新規参加者の60%以上が運動不十分層
継続率	参加者のデータアップロード率85%以上
歩数の変化	新規参加者の運動不十分層における推奨歩数 or 1,500歩以上増加者が60%以上 継続者の平均歩数において、55%以上が推奨歩数以上

※KPI項目は第1期・第2期SIBのものであり今後検討

健康ポイントプログラムの概要(予定)



つくばウェルネスリサーチ資料を参考

ポピュレーションアプローチ健康づくり無関心層対策

運動無関心層は成人人口の7割を占め、無関心層は自ら健康情報へのアクセスをしない

無関心層へ情報を届ける仕組みがないと行動変容は起こらない

施策①：無関心層への情報提供

口コミ隊の『健幸アンバサダー』の養成
健康情報を大切な人に伝える伝道師
官民連携で数千~万人を養成

健康づくり=「自分のため」+「大切な人のため」
という新たな考え方健康格差の縮小に寄与

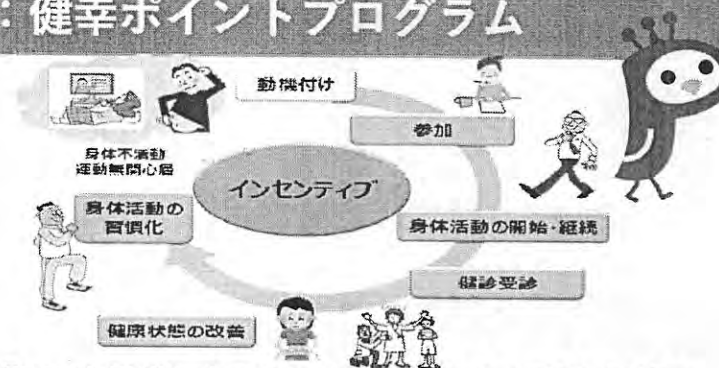
全国で200万人養成 (2030年までに)

- 1人が5人に伝えると1000万人以上への伝達システムが構築
- ヘルスリテラシー向上による健康無関心層の縮小
- ヘルスケア産業の活性化
- 社会参加の場の提供
- 施策の効果向上
- 生きがいづくり

ここまでの主な成果

- ① 1人当たりの情報伝達人数 14.9人/年
- ② 情報を伝えた相手の行動変容 (推測) 66%

施策②：健幸ポイントプログラム



「ICTを活用したSWC健幸ポイント事業」の成果

無関心層の
切り崩し

6市12,000人が参加
その内74%が無関心層！

継続化

約9割が6か月以上継続参加し、歩数を増加
推奨歩数8,000歩を上回った

健康データの改善
医療費の削減

- ① リスクが高い者の約35%がメタボを解消
- ② 1人当たり年間5万円の医療費を抑制

個別運動栄養プログラムによる医療費適正化・介護リスクの抑制

T-Wellの特徴

優れた個別健康支援プログラムとは

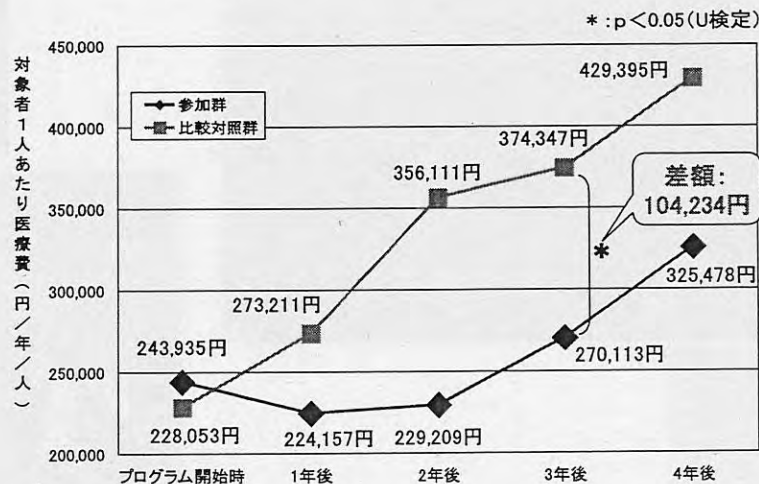
- ① 「効果」のあるプログラム
- ② 「継続性」のあるプログラム
- ③ 「波及性」のあるプログラム
- ④ 「医療費適正化」を実現するプログラム

個別健康支援プログラムの効果

- 40~70歳代の参加者で体力年齢若返り効果を達成
- 1年後の継続率平均85~90%
- 数千名規模にも対応可能なシステム
- 非参加者と比較して約11万円の医療費抑制を達成
- 非参加者と比較して介護リスクが64%低減

T-Wellによる効果

新潟県見附市運動継続者一人当たりの医療費の推移



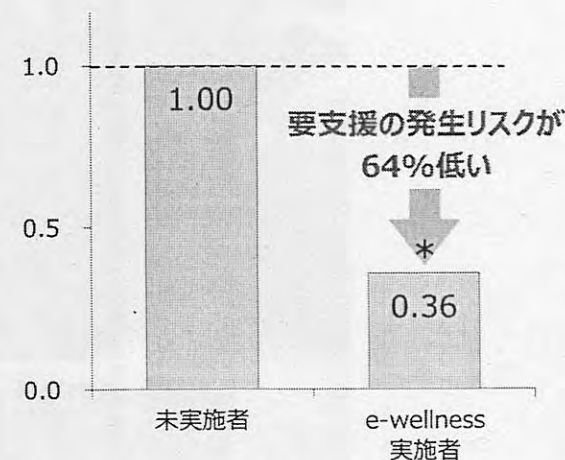
※1 参加者228人中4か年継続で国民健康保険の被保険者であった者

※2 運動群と比較のために性・生年および総医療費を合わせ、国民健康保険4か年継続加入者から3倍の人数を抽出

◆参加群 94人^{※1}
平均年齢70.1歳

■対照群 282人^{※2}
平均年齢70.2歳

要支援1以上の認定を受けるリスク

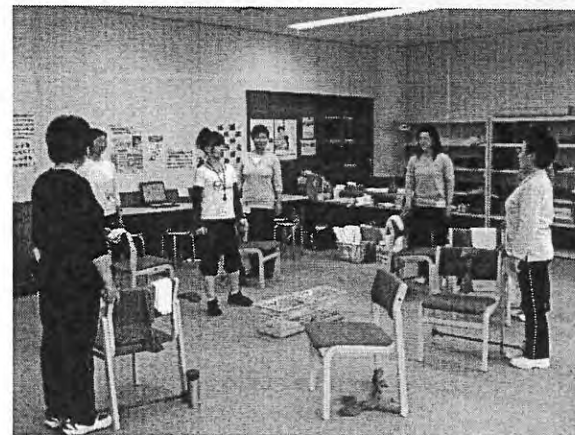


Cox比例ハザード分析、*P < 0.05

※ 年齢、性別、入院・入院外医療費、健診受信状況を調整したハザード比を算出

出典：筑波大学久野研究室・つくばウエルネスリサーチ

運動教室の様子



【参考】 第3期SIBプロジェクト 事業規模（案）

（人）

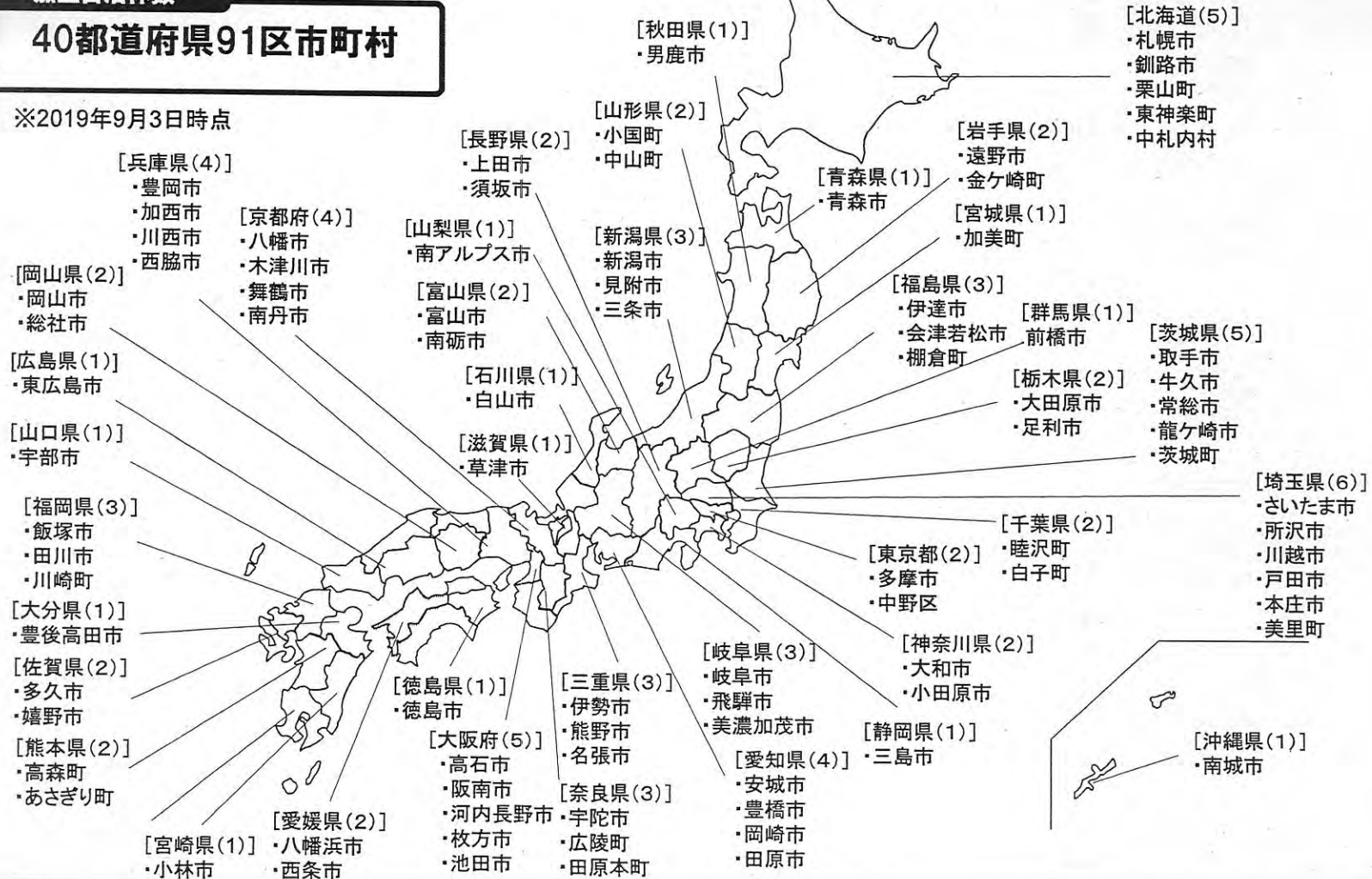
			2019	2020	2021	2022	2023	2024
大阪府 高石市 5.6万人	ICT健康プログラム 参加者数	新規参加者		1,500				
		継続参加者	2,500	2,500	4,000	4,000	4,000	4,000
				4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	(80・90代参加者数) (健幸アンバサダー)	(300)	(600)	(600)	(600)	(600)	(600)	(600)
			(700)	(1,150)	(1,600)	(1,600)	(1,600)	
福岡県 飯塚市 12.9万人	ICT健康プログラム 参加者数	新規参加者		500	1,500	1,500	2,000	2,000
		継続参加者	150	150	590	1,880	3,040	4,540
				650	2,090	3,380	5,040	6,540
	(80・90代参加者数) (健幸アンバサダー)	(300)	(98)	(314)	(507)	(756)	(981)	(981)
			(260)	(600)	(600)	(800)	(1,600)	
奈良県 田原本町 3.2万人	ICT健康プログラム 参加者数	新規参加者		500	750	750	500	500
		継続参加者			450	1,080	1,650	1,940
				500	1,200	1,830	2,150	2,440
	(80・90代参加者数) (健幸アンバサダー)	(300)	(75)	(180)	(275)	(323)	(366)	(366)
			(200)	(500)	(800)	(1,000)	(1,200)	
鳥取県 湯梨浜町 1.6万人	ICT健康プログラム 参加者数	新規参加者		200	200	300	300	400
		継続参加者	100	150	320	470	690	890
				350	520	770	990	1,290
	(80・90代参加者数) (健幸アンバサダー)	(300)	(53)	(78)	(116)	(149)	(194)	(194)
			(120)	(200)	(320)	(440)	(600)	
4市町 23.3万人	ICT健康プログラム 参加者数	新規参加者	0	2,700	2,450	2,550	2,800	2,900
		継続参加者	2,750	2,800	5,360	7,430	9,380	11,370
				2,750	5,500	7,810	9,980	12,180
	(80・90代参加者数) (健幸アンバサダー)	(300)	(825)	(1,172)	(1,497)	(1,827)	(2,141)	(2,141)
			(1,280)	(2,450)	(3,320)	(3,840)	(5,000)	

SWC首長研究会 加盟自治体

加盟自治体数

40都道府県91区市町村

※2019年9月3日時点



田原本ヘルスケアプロジェクト2020

健康ポイント 自主事業（案）

<p>特定検診・がん検診 受診意欲ポイント事業</p>	<p>本町における特定検診受診率は県平均より低く、受診率向上事業の効果も伸び悩んでいる状況 特定検診・がん検診受診者に対してポイントを付与し、更なる受診率の向上を目指す。</p>
<p>コミュニティ参加促進事業</p>	<p>さまざまなイベントや地域の集まりに参加する高齢者に対してポイント付与 家に閉じこもらず外出して地域の人々と交わり、所属するコミュニティの範囲を拡げ、人が集い安心して暮らすことができる地域を創生</p>
<p>ボランティアポイント事業</p>	<p>「ファミリーサポート事業」や「高齢者日常生活サポート事業」のマッチングを介してボランティア事業に参加した利用者に対してポイントを付与 支援する側とされる側が可変的となり、それぞれの持つ能力を発揮してボランティア事業に参画することを促進し、「全世代活躍のまち」創生に寄与</p>
<p>潜在有資格者掘り起し事業</p>	<p>慢性的な保育人材・介護人材の不足を解消するとともにヘルスケア事業の展開に合わせた保健師・看護師・理学療法士などの有資格者人材を確保するため、町内に潜在する有資格者を掘り起こし、田原本町社協の福祉人材登録型派遣事業を利用して、ワークシェアなどにより人材確保に努める これらの事業により就労開始した利用者に対してポイントを付与し、誰もが活躍する地域社会の実現を目指す</p>
<p>避難訓練参加ポイント事業</p>	<p>災害時に避難すべき指定避難所が分からない者が多く、住民参加型の防災訓練において、避難すべき指定避難所や避難に要する時間を確認することが必要であり、訓練参加者にポイントを付与することにより、参加促進と健康増進・運動機能の維持向上の大切さを実感してもらう。 共助の必要性を再確認し、近隣に居住する支援の必要な人の確認と移動方法の再確認を行い、全世代活躍のまちづくりに取り組む</p>
<p>下校時児童見守り ポイントアップ事業</p>	<p>地域の人々がいきいきと街中を闊歩し賑わいを維持することで「人の目」が増加し、下校時の児童を対象にした悲惨な事件の抑止力になる。 子ども達の下校時間帯に合わせてウォーキングをすることで加算ポイントを付与し、下校時間における「人の目」の増加に努めることにより、安心して暮らすことのできる地域を目指す。</p>
<p>学校給食における 食習慣改善のための監修事業</p>	<p>本町では、生活習慣病の原因である塩分摂取過多や高脂血症対策が課題とされるデータがある 家庭における食生活の改善に向けて、子ども達からその重要性を家庭に伝えてもらうため、学校給食における監修事業を実施し、健康維持・介護予防に資する食習慣の改善を目指す。</p>

田原本町 高齢者の基礎数値

■ 高齢化率の推移

【単位：人、％】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
田原本町人口（年度末）	32,241	32,067	31,947
65歳以上人口	9,603	9,749	9,848
田原本町高齢化率	29.8	30.4	30.8
奈良県（10月1日）	29.5	30.2	30.8
全国（10月1日）	27.3	27.7	28.1

■ 認知症高齢者数

【単位：人】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
9月末時点	963	984	990

■ 認知症徘徊高齢者数

【単位：人】

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
徘徊高齢者数（年度末）	2	4	2

■ あんしん登録カード登録延べ人数

【単位：人】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
徘徊高齢者数（年度末）	1	5	8

■ 要介護認定の状況

【単位：人、％】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
認定者数（年度末）	1,562	1,592	1,592
認定率	16.2	16.3	16.1

※2号被保険者含む

■ 独居世帯の状況

【単位：人】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
独居世帯数（年度末）	1,015	1,071	1,134

